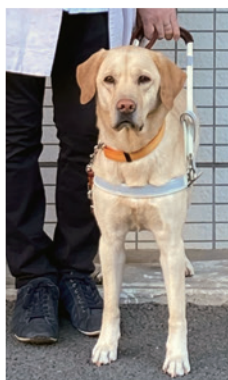
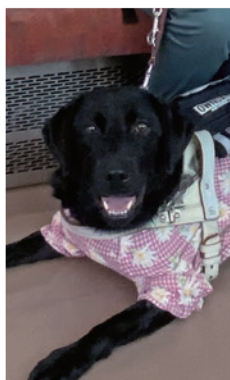
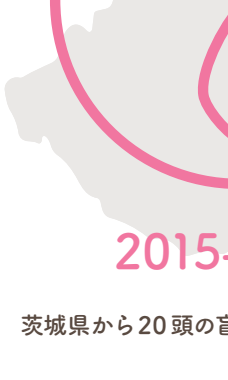
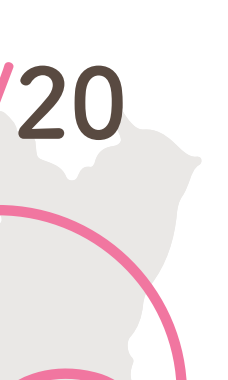
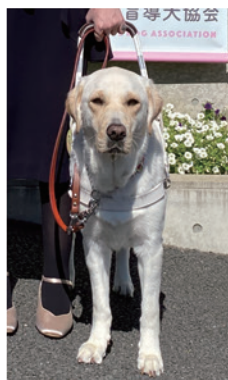


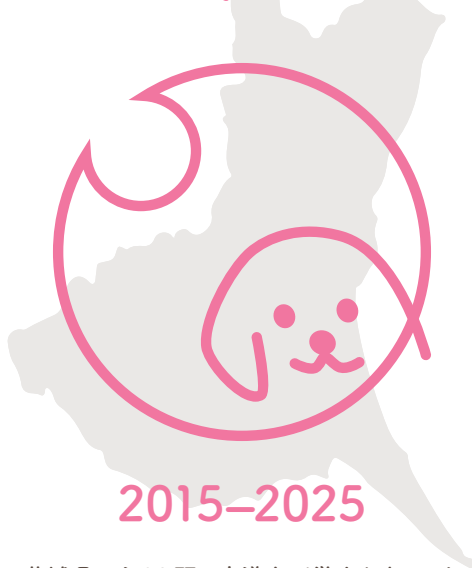
協会だより
Vol.10

10年目、20組目の認定

育てっぺ茨城県で盲導犬



10/20



2015-2025

茨城県から20頭の盲導犬が巣立ちました！

国家公安委員会指定・一般財団法人
いばらき盲導犬協会

IBARAKI GUIDE DOGS FOR THE BLIND ASSOCIATION



公式HP

協会だより 第10号 令和7年8月発行（第9号は欠番）
発行：国家公安委員会指定（一財）いばらき盲導犬協会
所在地：〒312-0052 ひたちなか市東石川3610番地10
TEL&FAX: 029-275-3122
eMail: info@guidedog.ibaraki.jp / URL: guidedog.ibaraki.jp

いばらき盲導犬協会の「協会だより第10号」をお手にとってください、誠にありがとうございます。本号では20頭目の認定を記念して、10年前に1頭目の盲導犬のユーザーとなった松井進氏からメッセージをお寄せいただきました。また、この1頭目のジョバンニ号について、引退先のご家族の視点で愛情豊かに綴っていただきました。ぜひ、ご一読ください。

令和6年度活動報告（ダイジェスト）

● 盲導犬の育成

令和6年度には13頭の訓練をおこない、5頭を盲導犬として認定。茨城県、神奈川県、東京都にお住まいの目の不自由な方々のパートナーとなりました。5頭はキャリアチェンジ犬となり、一般のご家庭に家族の一員として迎えられました。なお、引退した盲導犬は2頭でした。

● 訓練犬の確保

令和6年度には7頭の仔犬が自家繁殖により誕生しました。3頭を当会に候補犬として残し、(公財)日本補助犬協会と(公財)東日本盲導犬協会にそれぞれ1頭ずつ候補犬として譲渡しました。また、台湾の恵光導盲犬学校にも候補犬として2頭を譲渡しました。逆に国内の盲導犬育成団体からは3頭を当会へ譲渡していただきました。その他1頭を一般の方から寄贈していただき、年度内には合計で7頭の候補犬を確保いたしました。

● 犬舎の改修

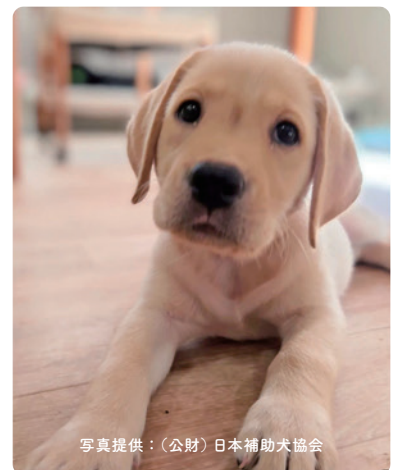
訓練をがんばっている犬たちの住処をより快適にするため、犬舎の改修工事をおこないました。犬室の壁を低くしたり、窓を取り付けたりすることで、犬舎内がとてもしつかり、風通しも改善しました。通常予算から工事費用を賄うことが厳しかったため、当会としては初めてクラウドファンディングを開催しました。想像以上にたくさんの方からご支援をいただき、無事に工事費用を調達することができました。

● 後進の育成

令和6年度を通して訓練士研修生の募集をおこなっていましたが、なかなか集まりません。令和7年度の新規採用は叶いませんでした。技術を継承していくためには後進の確保が不可欠です。引き続き多方面へ募集をかけてまいります。



明るく、風通しの良くなった犬舎（令和6年6月工事）



写真提供：(公財)日本補助犬協会

日補犬に譲渡された仔犬（令和6年7月15日生）



水戸駅にて訓練中の20組目の盲導犬ユニット（令和7年5月）

ご挨拶（認定20頭目にあたって）

2025年6月6日、当会から20組目の盲導犬ユニットが巣立ちました。ふと気がつけば、2015年5月25日に初めてのユニット（松井進氏／ジョバンニ号）を送り出してから、ちょうど10年が過ぎていました。

1組目の誕生からしばらくは毎年1組のユニットを出すのも精一杯、半ばにはコロナ禍に見舞われるなど大変厳しい10年間ではありました。盲導犬が全く育たない年さえありました。それでも多くの方が見放すことなく、長きに渡り有形無形のご支援の手を差し伸べてくださったことが、この度の20組目の誕生につながりました。誠に感謝の念に堪えません。

そしてこの様な厳しい状況にあっても、現在の訓練担当者は、ボランティアの方々や協力施設から最大限の援助をいただきながら、盲導犬の安定供給という課題に諦めること



令和6年度に認定されたユニット（令和6年9月）

なく取り組み続けました。結果、近年では毎年数組の盲導犬ユニットをコンスタントに送り出すことができています（2022年度4組、2023年度4組、2024年度5組）。

設立時に当会は、極小の施設が故に数多くの盲導犬を育てることは望めないため、毎年2頭前後の盲導犬の育成と、規模の小ささを活かし、個々のユーザーに寄り添った柔軟で小回りの利く対応を理想に掲げました。今、ようやくその理想に近づいてまいりました。後進の育成や安定した財源の確保など、まだまだ解決しなければいけない課題はございますが、常に初心に帰りながら次の10年も盲導犬の育成を通じて、目の見えない方、目の不自由な方の歩行の安全を支えるため力を尽くしてまいります。

2035年、当会からどのような盲導犬ユニットが巣立っていくのでしょうか？10年後、多くの支援者の方々と共に、その門出を見届けることができればとても嬉しく思います。



卒業20組目の誕生に寄せて

千葉県 松井 進（盲導犬ユーザー・公務員）

2025年6月6日、いばらき盲導犬協会の20組目の卒業生が誕生されたとのこと、本当におめでとうございます。

私は前身である全国盲導犬協会で、1頭目のジョバンニと卒業し、現在はいばらき盲導犬協会になって5頭目となる後任の盲導犬とともに歩んでいます。これもひとえに協会を支えてくださった多くの皆様のご支援があつてのことと、心から感謝いたしております。

目が見えないということは、いろいろな意味でハンディーがあります。その中でも顕著なのが移動の問題です。人の情報の80%以上は視覚を通じて得ていると言われるほどですから、見えない状態での外出は、何時も危険との隣り合わせです。視覚を失った状態では、歩くことへの恐怖心から外出できなくなってしまう方が多くおられます。しかし盲導犬という信頼できるパートナーと一緒にあれば、お互いに協力することで、その恐怖心からは少し解放され、社会参加することができます。

私は現在片道1時間半ほどかけて、盲導犬と一緒に電車通勤をしています。平日は仕事、休日は勉強会に参加したり、外食をしたり、映画に行ったり、時には旅行や出張に出かけたりと、忙しく生活しています。このように自由に社会参加できるのも、忙しい毎日にも関わらず、不平不満をいうことなく、常に支えてくれる盲導犬の存在があつてこそです。

盲導犬は目が見えない使用者の安全な歩行を支え、心の平安をもたらし、家族として献身的に尽くしてくれています。そして多くの視覚障がい者の社会参加を、献身的に支えてくれているのです。

今回10年という節目を迎え、20ユニット目の卒業生を送り出された「いばらき盲導犬協会」の歩みに心から感謝するとともに、その並々ならぬご苦勞に敬意を表します。

そしてそれを支えてくださった多くの方々に感謝しつつ、次の20年、30年とより事業が発展していくことを心から願っています。そして今後ともたゆまぬ歩みを継続できるようにするため、皆様のご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。



認定式に臨む松井氏と盲導犬ジョバンニ（平成27年5月）



ジョバンニの引退後、後任の盲導犬と歩く松井氏（令和5年2月）。

松井氏と盲導犬が歩行する動画を右のQRコードからご覧いただけます →





安らぎの存在、ジョバ君

M. O. (引退犬飼育ボランティア)

我が家の《安らぎの存在》ジョバンニ君(以下、ジョバ君)との生活についてお話しします。

ジョバ君とは、平成30年、母が県職員松井さん担当の図書館音訳者養成講座を受講した時に出会いました。ハーネス着用のジョバ君がフリーになるお昼休みのワンツータム(トイレ休憩)を狙い、「ジョバ君を触らせて下さい!」とお願いしたそうです。盲導犬として現役バリバリのジョバ君は、ハーネスを着用すると「これから仕事だからまじまじ見ないでね。話しかけないでね」と伝えるかのように、横目でチラ見し、母の目の前を凛々しく颯爽と通り過ぎる姿は、今でも脳裏に焼き付いているそうです。

先住犬の「まりん」が同じ年齢、誕生日は1週間違いと知り、「これは運命!」と、引退後のジョバ君との生活を熱望し、即登録。2頭飼いの経験はあったものの、家族が増えるかもと父に相談すると、現状では先住犬の意思確認が難しい為、マッチングを2回設定。松井さんから「犬は集団で生活するものなので適応力はあると理解しています」と励まして頂き、時間を掛ければきっと大丈夫と信じる一方、吠えてしまう先住犬に不安な気持ちも見え隠れしました。恐らく当時のジョバ君は「何もしていない僕に何故吠えるのだろう」と困惑していたと思います。まりんは、令和7年1月17日、虹の橋を渡りました。ジョバ君のお散歩の後、まりんをカートに乗せると、「僕も行く!」とカートの左側を並走、時々振り返り、鼻先をカートにチョンと当てながら「大丈夫だよ、僕に着いてきて」と誘導する姿は、現役時代を彷彿とさせました。ジョバ君との生活でシニアワンコライフに良い刺激が加わり、イングリッシュブルドッグの平均寿命8歳を優に越え12才の大往生は、いつも傍にいてくれたジョバ君のおかげです。とても感謝しています。

現在のジョバ君は、リビングで母の音訳録音作業の監督が任務。ジョバ君、フーツと溜め息をつく。カツカツと床に爪の音を立てる。辛口です。夜、和室の布団で眠りたくなるとリビングから脱出のチャンスを狙い、ソワソワクンクンアピールタイム。布団に入るや否や、へそ天(ひっくり返って)ゴロゴロとスリスリ匂いを付けて入眠。布団は殆ど占領され、父も私も(父が宿直時は私が添い寝します)斜めの体勢で眠ったり、畳に追いやられます。優しいジョバ君には人間も犬も区別なく、お友達が沢山います。ややもすると犬が苦手な方にとって、黒い大型犬のイメージを覆すホスピタリティの高さが、ジョバ君の一番の魅力だと思います。

私が盲導犬について深く知りたい、ジョバ君が育った環境で学びたいと思い、いばらき盲導犬協会に実習をお願いした事も、ジョバ君の存在がとても大きいです。いつまでも元気で、かけがえのない私の弟であってほしいです。大好きなジョバ君、いつもありがとう!



引退犬ジョバンニ近影(令和5年2月引退)



まりんのカートに寄り添って桜の下を一緒に散歩



同じ歳のまりんともすぐに仲良くなりました

【お願い】盲導犬育成事業の財源は9割が寄付金で支えられています。多くの方にご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

● ゆうちょ銀行の口座へ送金する

受取人: 一般財団法人いばらき盲導犬協会

郵便局・ゆうちょ銀行から→[1]/他の金融機関から→[2]

[1] 記号・番号 00100-7-695089

[2] ゆうちょ銀行 〇一九店(店番: 019) 当座 0695089

● オンラインで支援金や支援品を送る

右のQRコード、または下のナビ/アドレスから当会の

ホームページ内オンライン支援用ページにアクセスしてください:

[ナビ] いばらき盲導犬協会→サポート→オンライン支援

[アドレス] guidedog.ibaraki.jp/?page_id=1488

